



われら竹中協力隊～今自分にできることは何か～

広島県竹原市立竹原中学校

担当教科：社会科

内尾 礼子

◆実践教科：総合的な学習の時間 道徳 ◆時間数：14時間 ◆対象学年：中学1年生 ◆対象人数：169名

カリキュラム

ココがすばらしい！

・マラウイの紹介にとどまることなく、マラウイが抱える問題に対し、自分だったらどうするか、自分たちが協力隊としてどんな活動をしたかという授業実践が面白い。

◆実践の目的

- ① マラウイの学習を通して、アフリカや発展途上国と呼ばれる国々の現状に興味関心を持たせる。
- ② 青年海外協力隊の隊員の姿から、国際貢献とは何か、自分には何ができるのかを考える。
- ③ 自ら隊員として活動する体験を通して、自己有用感（自分が人の役に立っているということが、まさに自分の喜びとなる）を実感し、今の自分自身の姿を見つめなおす。

授業の構成（研修前の事前学習も含む）

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	マラウイ研修報告 指導者が実際に見て感じたものを伝えていく（総合）	① マラウイ〇×クイズを行う ② マラウイクイズを行いながら、マラウイの現状を紹介する	パワーポイント
2	国際貢献とは何だろうか 実際にボランティアを行う日本人医師の姿から、国際貢献について考える（道徳）	① VTRを視聴する ② 日本人医師の姿からどうしてボランティア活動を行うのか考える ③ 人のために役に立つことの意味を考える	VTR 【映像資料①】 感想用紙
3 ▼ 4	HIV/AIDSとは何だろうか HIV/AIDSについて、どんな病気なのか、世界の現状や日本での取り組みについて知る（道徳）	① マラウイで出会ったHIV/AIDSについて紹介する ② VTR（HIV/AIDS医療ボランティア）を視聴する ③ 病気について寸劇を実施し、説明を行う ④ 「ライアン君の願い」を生徒が朗読する	パワーポイント VTR 【映像資料②】 感想用紙
5	「貧困の輪」 貧困の原因とその解決方法を考える（総合）	① 「貧困の輪」ワークショップをグループごとに行う ② グループ案をクラス内で交流する	ワークシート
6	学校に行きたい！ 資料やVTRから、世界の子どもの現状や学校に通う意味を考える（道徳）	① パワーポイントを使い、学校に通えない世界の子どもの現状を確認する ② VTRを視聴し、学校に通うことの意味を考える	パワーポイント VTR 【映像資料③】 感想用紙
7 ▼ 10	われら竹中海外協力隊 マラウイに派遣された隊員になりきり、実際の隊員が取り組んでいた課題について解決方法を考え、ポスターセッションを行う（総合）	① 課題を確認し、グループごとで解決策のアイデアを出し合う ② 発表にむけてポスターを作成する ③ クラス内発表会を行う ④ クラス代表グループが次回の協力隊OBの講話の際に発表を行う	資料 （ワークシート、 情報カード）

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
11 ▼ 12	協力隊OBの講話 協力隊とは何か、国際貢献とは何かを、協力隊OBの話を聞き考える（総合）	①「われら竹中海外協力隊」の代表グループが活動紹介のために発表を行う ② 協力隊OBのお話を聞く	パワーポイント ポスター (生徒作成) ワークシート
13 ▼ 14	まとめ 今自分にできることは何だろうか（総合）	① これまでの活動を個人で振り返る	ワークシート

授業の詳細

1 時限目 | マラウイ研修報告

研修報告として、マラウイの紹介、私自身の体験や思いを、パワーポイントを使い紹介した。

まず、出発前に紹介したマラウイの基本情報を再確認した。その後、研修中に撮影した写真をもとに〇×クイズ・写真クイズを行い、答え合わせをしながらマラウイを紹介した。

〇×クイズ

- ① マラウイは日本と同じ左側通行である
- ② マラウイにも制服がある
- ③ マラウイのカラスは灰色である
- ④ マラウイの女性はいつもスカートをはいている
など、日本との共通点や違いがわかる内容にした。



クイズにチャレンジ!

写真クイズ

モスキートネット、サッカーゴール、トイレ、黒板消し、学校のチャイム、ボールの材料、路上の棺桶屋、手作り楽器 などの写真をもとにクイズを出題する

次に出発前に生徒から聞いたリクエストに答えることで、マラウイの紹介を行った。

リクエストにお答えします!

- ① マラウイ湖はどんな湖か、見てきてほしい
- ② マラウイの生徒たちがどんな毎日を過ごしているか調べてきてほしい
- ③ マラウイの衣食住について、調べてきてほしい

…など、生徒が興味のあることを事前に調べ、行って分かったことを紹介した。紹介しきれなかった質問については、情報カードとしてまとめて生徒に配布した。



パワーポイントで研修内容を紹介

最後に、研修で私自身が感じたことを紹介した。

- ① 何でも自分からやってみなければ始まらない
私が研修参加を決心した際の心境と、その決心が与えてくれた出会いへの思いを述べた。
- ② 当たり前は当たり前ではない
マラウイの学校の教室の写真を紹介し、自分たちの教室の様子と比較させた。自分たちが当たり前だと思う事(例えば教室に机がある、きれいな黒板がある)は、必ずしも当たり前ではないということを伝えた。

③ 人の役に立てることの喜び

青年海外協力隊の隊員との出会いから、人のため何かを成し遂げることの意味や喜びについて私自身の思いを伝えた。

生徒の感想

- ・楽器やボールなど手作りで作っていて、物を大切に使うマラウイの人の姿に驚いたし、見習わないといけないと思った。
- ・自分たちが作ったプレゼントをマラウイの生徒が持っている写真を見て、遠いアフリカに友達ができたと感じてうれしかった。
- ・アフリカと聞いて草原の野生の動物がいるイメージだったけれど、私たちの生活とそんなに変わらないことを知って、遠い存在だったマラウイをちょっと身近に感じた。
- ・言葉も通じない外国で活躍している日本人がいることにびっくりしたし、すごいと思った。

〈所感〉

私自身がマラウイで経験したこと、そこで感じたことをもとにマラウイについて紹介した。研修前の事前アンケートで、生徒へのリクエストに答える形で報告ができたので、これにより生徒がとても関心を持って報告を聞いたと思う。

2時限目 国際貢献とは何だろうか

VTR『医心伝心』（「情熱大陸」09年7月26日放送分）を視聴し、ミャンマーでボランティア医療活動を行う吉岡医師の姿から、国際貢献とは何かを考えた。（感想文・意見交換）

3・4時限目 HIV/AIDSについて考える

マラウイで出会ったHIV/AIDSについて、パワーポイントを使い紹介した。

使用した写真：ペットボトルのラベル、お土産屋のブローチ、訪問先の学校の校長先生の言葉、路上マーケットの棺桶屋、図書館に貼られたポスター、病院に貼られたポスター「ディマクコンダ（山田耕平氏の写真）」

マラウイで出会ったエイズとは何かと問いかける2時間とした。

VTRのカンボジアのHIV/AIDS患者の姿から、エイズとはどんな病気なのか知り、その後HIVとAIDSの違いや発症のメカニズム、世界の現状やエイズ撲滅の取り組みなどを、パワーポイントや教員の寸劇、保健委員（生徒）によるクイズや朗読を通して学習した。



HIV・AIDSクイズを保健委員の生徒が出題



ライオン少年の紙芝居を朗読

生徒の感想

- ・HIV/AIDSが世界で広がっている事を知り怖かったが、日常生活の中ではうつらないことも知り、正しい知識を身につけることが、感染や差別を防ぐ第一歩なのだった。
- ・マラウイでは、HIV/AIDSで死んでしまう子どもがいると聞きかわいそうだったと思うが、実は日本でも感染が広がっている事を知り驚いた。遠い世界の事だけではないのだと思った。

〈所感〉

私がマラウイで出会ったH I V / A I D Sの現実には少なかったが、中学生なりにH I V / A I D Sの問題に触れることはできないかと思い、マラウイで出会ったH I V / A I D Sの事実から世界の現状に広げられたらと企画した。単に情報の伝達にならないように、生徒会の委員会活動と協力して、保健委員メンバーによるH I V / A I D Sクイズや紙芝居朗読、さらには教職員のH I V / A I D Sメカニズム寸劇など、楽しみながら学習できるように工夫をしてみた。

5時限目 貧困の輪ワークショップ

「貧困の輪」ワークショップを行い、貧困の悪循環はどのようにして起こるのかを考えた。

そして、どうすれば貧困の悪循環を断ち切れるか、グループごとにアイデアを出し合い、クラス内で交流した。



クラスで意見交流



グループで貧困の輪をつなぐ

6時限目 学校に行きたい

JICA資料【書籍④⑤】をもとに作成したパワーポイントを使い、世界の子どもたちが学校に通えない現状やその原因をクイズ形式にして学習した。

その後V T R『世界がもし100人の村だったら』を視聴し、ガーナのカカオ農園で働く子どもたちの姿から、学校に通うことの意味を考えた。



世界の子どもの現状を伝える

7~10時限目 われら竹中海外協力隊【添付資料】

最初に、私がマラウイで出会った青年海外協力隊の活動を紹介し、自分たちも「竹中海外協力隊」を結成し、実在する課題を解決するためにどんな事が出来るか、その活動内容と目的を確認した。

竹中海外協力隊のみなさんへ

あなたが派遣されたマラウイのある村で、こんな相談を受けた。

「頑張って学校に通っていた生徒が、学年が上がるごとに辞めていく。なんとか学校を辞めないように生徒たちをつなぎとめられないものか…」

さて、あなたならどんな活動をして、この課題を解決するか？

JICA竹原より



マラウイの生徒たち



【活動1】グループ結成(3人もしくは4人グループで活動)

- ① グループ名(活動内容を表す名前を設定すること)
- ② 活動スローガン(自分たちの活動の目標を一言で表す)
- ③ 学校を辞めていく原因
- ④ 具体的な活動内容とその理由

【活動2】グループで活動案作成

情報カード(指導者作成のシート)や「行って調べてきました!」シート(生徒事前アンケートの答えをまとめたもの)をもとに、情報を整理し、生徒が学校を辞めていく原因を推測し、課題解決への具体策を考える。活動内容をポスターにまとめ、報告会の準備をした。

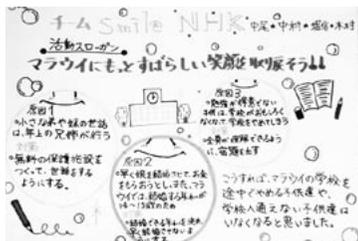
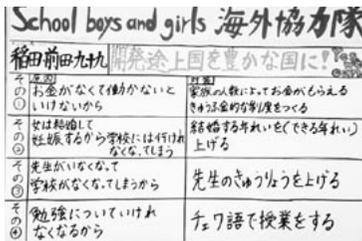
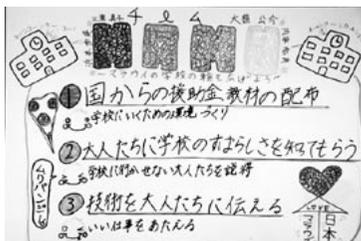




【活動3】クラス内活動報告会

9グループごとに考えた活動内容をクラス内で報告した。発表の内容を生徒どうしで相互評価し、一番発表の良かったグループは、次回の協力隊OBの方の講話の際にクラス代表として発表した。

〈活動ポスターの作品〉



生徒の感想

- ・マラウイの子どもが学校を辞める理由は、ただめんどうくさいからではなく、子守りや家事、学校に通いにくい環境だったり、いろんな原因があるのだなと思った。途上国では子どもたちが学校に「行かない」ではなく「行けない」環境があるのだと知った。
- ・人のために何かできると思ったら、難しい課題も諦めずに絶対何とかしたいという気持ちに変わった。
- ・最初は貧困にあえいでいる人たちの役に立てるようなものを考えていたけれど、どんどん現実味が出てきて、考えれば考えるほど自分はこなせたいくをしていていいのか、とまで考えるようになった。

〈所感〉

マラウイで出会った協力隊員の活動をもとに、協力隊模擬体験を行った。マラウイという国自体をよく知らない子どもたちに、短期間で得た情報をもとに活動させるのは、逆に偏った見方や考え方、間違った情報を伝えてしまうのではないかと悩んだ。しかし、実際の協力隊員も現地に入ってから手探りで情報をつかんでいくということをお聞きし、現地の情報がよく分からない不安の中、数少ない情報をもとに今自分に何ができるのかを考え行動する体験は疑似体験できるのではないかと思った。活動してみると、想像以上に生徒たちがよく考えていた。既習の学習内容を生かしながら、少ない情報の中から学校を辞めていく原因を想像し、その解決策を考えることができた。活動案の中には、協力隊員の活動にはふさわしくない内容もあったが、中学生なりに真剣に考えることはできたと思う。

11・12時限目 協力隊OBの講話

JICA出前授業を依頼し、タンザニアで活動をされていた協力隊OBの方に、竹中海外協力隊の活動報告を行った後、協力隊への志望理由や実際に協力隊で活動した内容、その体験で感じたことなどを講演していただいた。

【講演内容】

- ・協力隊員時代の経験談(活動内容、赴任地での生活など)
- ・体験コーナー(水の入ったバケツを頭に乗せる、カンガ試着)
- ・隊員経験から学んだこと、中学生に伝えたいこと



カンガ(布)を説明中

生徒の感想

- ・自分たちが善意でやっていることも、途上国からすればすごく重荷で、逆に迷惑をかけてしまうこともあるんだということを知った。なんでもすればいい、あげればいいのかという訳ではないことを学んだ。
- ・「竹中海外協力隊」が発表し終わった後に、(講師の方が)発表したことを参考にして実際にやってみたいと言ってくださったのでうれしかった。

<所感>

私が短期間の訪問で見えなかった真の姿が少しでも生徒に伝えられたらという思いと、自分たちの活動をOBの方に見ていただくことで、生徒のまとめ活動の励みになればという思いから、実際に協力隊の経験のある方にお話をしていただく機会を企画した。実際に協力隊員として活動した体験談は、生徒にとってとても刺激あるものとなった。特に「押しつけの支援では相手国にとって不快な思いをさせてしまう」という話では、「いろいろな物をあげる」と活動案を考えた生徒たちに、相手の立場に立って活動することの大切さを投げかけてくださった。自分たちの考えた活動案を再度振り返ることのできる貴重な時間を持つことができた。

13・14時限目 | まとめ～今自分にできることは何だろうか～

これまでの活動を振り返り、ワークシートに個人で記入をした。その後、パワーポイントを使い、ここまでの自分たちの活動の内容を振り返りながら、私自身が考える国際協力について伝えた。

生徒の感想

①「あなたがマラウイの学習活動から学んだことは何ですか」

- ・マラウイの学習から、見えていなかったのではなく、見ようとしていなかった国々のことを知った。また、遠い国で日本人が活躍している一方で、世界の富が平等でなかったり、偏見や差別を生みだしていたりしていることが分った。私たち日本人のしていることが自己満足で終わらないよう、考えて行動しなければいけないと思った。
- ・世界中には貧困の輪で苦しんでいる人がたくさんいることが分かった。あらためて日本はとても恵まれた国だなと思った。そんな自分が世界の国の人のために何ができるんだろうとしっかり考えることができた。
- ・マラウイのことを学習する前は、貧しい国なんだろうということしかわからなかったが、マラウイのことを知る中で、日本との共通点もたくさんあったから、全く無関係ではないんだなと思った。また節約の仕方がうまかったり、マラウイから学ぶことが多いと思った。
- ・「命の大切さ」です。世界には病気や貧困で命を落とす人がいる一方、私はきちんとご飯を食べることができている。だから自分で「死にたい」などの言葉は絶対に言うてはいけないと思った。

②「これからあなたの生活で、この活動をどう生かしていこうと思いますか」

- ・これからはいろんなことに興味や関心を持って生活しようと思う。ただ思いつきで行動するのではなく、よく知り、正しい知識を得てから、自分には何ができるのかを考えていくことが大切だと思った。
- ・自分たちにできることをやってみたい。まずは毎日のあいさつをきちんとする、物を大切にする、相手が困っているなら声をかけるなど、日ごろの生活の中でやっていきたい。
- ・これからはすべてのことに感謝していきたいと思った。私のあたり前があたり前なもの、親の、友達、先生の協力のおかげと心からそう思った。すべてのものに、人に、感謝していきたいです。そのために「ありがとう」をすぐ言えるようにしていきたい。

<所感>

ワークシートをもとに、まとめレポートを書く活動を最後の振り返りとした。マラウイの学習を通して、世界の現状、マラウイの抱える課題という「気付かなかった世界の現実」を知っただけでなく、この学習を今の自分の生活にどう生かしていきたいかを真剣に考えることのできた生徒もいた。思いの差はあるにしろ、学習を通して、「自分たちのあたり前があたり前ではない」という事実を実感し、自分にできることを考えられたと思う。

【実践授業の関連活動として】

- ①文化祭ステージ発表での活動報告・活動内容の展示
- ②保健委員による国際協力活動を行う方へのインタビュー活動
- ③国際協力に関する掲示板の作成
- ④エコキャップ運動の取組み



文化祭でマラウイブースを開設



保健委員によるインタビュー活動



国際協力掲示板

成果と課題（全体を通して）

私が研修前に立てた4つのテーマ「マラウイの女性の姿から、女性の人権について考える」「マラウイの一村民運動の活動から、貧困のしくみとその解決方法を考える」「マラウイの生徒の姿から学ぶことの意味を考える」「マラウイで活躍する協力隊員の姿から、国際協力の在り方について考える」を、実践授業の中でどう扱っていくかを考える中で、自分が研修中に一番印象に残ったことから掘り下げていこうと考えた。

それが青年海外協力隊の方々の活動であった。

マラウイで実際に協力隊として活動されていた隊員さんの姿は、「自分には何ができるか」と考え行動することのすばらしさを実感できるものであった。さらに村落開発の隊員さんの活動の中に、本校の取組みのひとつである「夢作文」があり、自分たちが普段学校で行っている取組みと共通していたことに感銘を受け、今回のなきり協力隊の活動テーマとすることにした。学校を舞台にすることで、マラウイの現状を考えるだけでなく、自分たちにとって「学校」とはどんな存在かを見つめなおす機会を持つことができたと思う。

実際に活動を始めると、同じ生徒という視点から、いろんなアイデアが浮かんできたようで、当初の予想よりはるかに多いアイデアが生まれた。また多くの情報の中から必要な情報を探し、自分たちなりに分析し解釈していく中で、学校を辞めていく原因を多面的にとらえることができたと思う。このようにしっかりと考える活動を行った後で、他グループとの意見交換会を持ったことで、自分たちとは違うアイデアに対して、共感や反対意見なども飛び出し、より活性化したと思う。

課題としては、マラウイに対するイメージを指導者の視点から作り上げていないかという点である。短期間で得た情報が正しいかどうか検証する方法もなく、正直困った。それを補う意味で、協力隊OBの方の講話を入れたが、アフリカでの生活体験をもとに話してくださり大変興味がわくものであったと同時に、その内容が「国際協力とは相手の立場に立って行うこと」という視点を再確認できるものであり、大変良かったと思う。また、この活動をどう次へつなげていくかが課題だと思う。せっかく学習したことを継続させる方法を仕組む必要があると思う。今現在は掲示板活用や委員会活動との連携を行っているが、これが持続性のある取り組みにできればと思っている。

参考資料

【書籍】

- ・佐々木恭子著(2009)「それでも笑顔で生きていく」扶桑社
- ・栗田和明著(2004)「マラウイを知るための45章」明石書店
- ・山田耕平著(2007)「自分に何ができるのか?答えは現場にあるんだ」東邦出版
- ・国際協力機構(2009)「学校に行きたい!～国際協力とわたしたち～」
- ・国際協力機構(2009)「学校に行けない世界の子どもたち」
- ・国際協力機構(2008)「世界から教室へのメッセージ-国際理解に役立つ教材集-」
- ・国際協力機構(2006)「学びのレポー-平成18年度教師海外研修プログラム『マラウイ』報告書」

【映像資料】

- ・TBS系列(2009.7.26)「情熱大陸『医心伝心』
- ・TBS系列(2007.10)「いのちの輝きスペシャル①小さな命を救いたい…悲劇の大地で闘う日本人たち」
- ・フジテレビ系列「世界がもし100人の村だったら」より「ガーナのカカオ畑で働く兄弟」の話
- ・山田耕平「ディマクコンダ」DVD

【インターネット】

- ・JICA(国際協力機構)HP) www.jica.go.jp
- ・「日本マラウイ協会HP」 www.joca.or.jp/malawi/malawi-j.htm
- ・「まらわ〜く(協力隊員ブログ)」 blog.goo.ne.jp/wa9work
- ・外務省各国地域情勢:マラウイ共和国
<http://www.mofa.go.jp/Mofaj/area/malawi/index.html>

われら竹中海外協力隊

あなたはマラウイのある村に派遣された協力隊員(チーム)です。
ある日、村の初等学校(日本の小・中学校)の先生から次のような相談を受けました。
「頑張って学校に通っていた生徒が、学年が上がるにつれ、次第に学校を辞めてしまうのです。
なんとか学校を辞めないように、生徒をつなぎとめられないものだろうか…。」
——— さて、あなたならどんな活動をしますか？

【JICA竹原より今後の活動についての指示】

- ① クラスで9つのチームを結成し、仲間とともに活動案を考えよう
- ② さまざまな情報を整理し、生徒たちが学校を辞めていく原因を探ろう
- ③ その原因を解決するために、どんな活動を行うのがよいか、アイデアを出す
(アイデアはいくつ出しててもかまいません)
- ④ 解決に向けてのアイデアを、他のグループに伝えるために、画用紙にわかりやすくまとめる
- ⑤ 発表原稿や発表の方法を考え、役割分担をする
- ⑥ 発表会を行う



情報カード

【学校について】

マラウイでは初等学校と高等学校の2種類あり、卒業時に全国一斉テストでいい成績をとると、のちの進学・就職に有利になる。	学校の施設はあまりよいものではなく、机がない教室などもある。電気はなく、明るいうちに薄暗い教室で授業を行う。
学校の退学率は、女性の方が男性より高い。	マラウイでは、多くの生徒は教科書を持っていない。
マラウイの生徒は、基本的にお昼になると家にお昼ご飯を食べに帰る。	マラウイでは、勉強がよくできる生徒が先生によく指名される傾向にある。
マラウイの生徒は、人生の中で大切な物は「教育を受けることだ」と考えている。	教育をしっかり受けると、給料のたくさんもらえる仕事に就職できるチャンスが増える。
マラウイの生徒に人気の仕事は、男子は運転手、女子は看護師である。	マラウイの学校では、就職に有利な数学や英語が人気で、体育や音楽などはあまり重要視されていない。
マラウイの学校では、授業前に出席をとらない。	マラウイの公立の初等学校の授業料は、無料である。

【家族・日々の生活について】

マラウイの多くの家庭は電気がないので、生活時間は朝4時から夜8時くらいである。	マラウイの多くの家庭は電気がなく、炊事はかまどで火をおこして行うため、調理時間がかかる。
マラウイの多くの家庭は電気がなく、洗濯は洗濯板を使い、手でおこなう。	マラウイでは、娘が嫁に行く時、相手の家からルボラという結納金や牛をもらえる。
マラウイでは小さな弟妹の世話は年上の兄弟が行う。	マラウイでは、主に女性が家事を行う。
マラウイの一般的な家庭は農業をしており、自給自足に近い生活をしている。	自給自足の生活は、現金で収入を得る機会がほとんどない。
マラウイの家族は子だくさんの家族(子どもが3人以上)が多い。	マラウイでは、家事の負担が大きいため、基本的に女性は家の畑を耕す農業を行いながら家の仕事を行う。
貧しい家庭では、結納金のルボラのために、娘を嫁に出すことがある。	水道が普及しておらず、村の共同井戸を使うため、遠くまで水くみに行かねばならないこともある。
食用油や石けん、衣服など、自給自足では作れない日用品は、街の市場へ行き、現金で買う必要がある。	マラウイの女の子は、14~15歳くらいの早い時期に妊娠・結婚することがある。

【国の状況について】

マラウイでは、H I V / A I D Sの問題が深刻であるが、近年は減少している。	マラウイは農業国で、天候により作物がとれない年は、食糧不足に陥ることもある。
マラウイは内陸国で、輸入は隣国から陸路で行われる。費用がかかる陸路輸送のため、物価が高くなる。	マラウイの公立病院は、診察など医療を受けるのは無料である。
マラウイの若者の中には、たくさん稼ぎたいという夢をかなえるために、隣国の南アフリカ共和国やケニアに出稼ぎに行く人も多い。	マラウイは世界の最貧国のひとつと言われ、1日1ドル以下(100円以下)で生活する人の割合が非常に高い。
マラウイは農業国なので、工場などが少なく、家で農業する以外に働く場所がほとんどない。	H I V / A I D Sは、出稼ぎに行った若者からマラウイに持ち込まれ、国内に感染が広がった。
マラウイの村で見かける仕事の種類は、農家や学校の先生など、とても限られている。	マラウイでは女性の地位はあまり高くない。